

本人引闈七月

生年月日
明治廿二年六月廿二日

原籍參軍籍六
七月廿二日生上
引之之後ヒ

高四尺
三十六寸

本籍地
豐多摩郡洪志公學署於十八步地
族籍

姓名 古市公威

生年月日 安政元年甲寅七月十二日

年月日 姫路藩

履歷

土木局

明治十五年十一月廿一日

傭申付候事

但月俸百貳拾圓給與候事

茨城縣出張申付候事

十四年二月廿二日

御用掛被仰付候事

但取扱奏任准三月俸百貳拾圓下賜候事

土木局事務取扱被仰付候事

六月廿八日

御用掛被仰付候事

和歌山靜岡兩縣へ出張被仰付候

全 上

七月十八日

御用掛被仰付候事

東京大學理學部勤務被仰付候事

文部省

明治十四年十月五日

御用掛被仰付候事

但一ヶ年金三百円下賜候事

文部省

十二月七日

東京大學理學部勤務被仰付候事

群馬長野兩縣へ出張被仰付候事

内務省

十五年一月九日

但一ヶ年金三百円下賜候事

月俸五拾圓增加候事

内務省

八月十六日

札幌出張申付候事

福井縣下越前國坂井港出張申付候事

内務省

十月二十五日

御用掛兼勤被免候事

月俸三十円增加候事

内務省

十六年二月一日

御用掛兼勤被免候事

御用有之福井新潟兩縣へ出張申付候事

内務省

五月二日

御用有之福井新潟兩縣へ出張申付候事

全 上

履歷

用紙

事

院

内務省

年月日	履歷	用紙	事	院	内務省
明治十五年二月廿二日	御用掛被仰付候事	但月俸百貳拾圓給與候事	茨城縣出張申付候事	土木局	全 上
明治十五年三月廿二日	御用掛被仰付候事	但取扱奏任准三月俸百貳拾圓下賜候事	和歌山靜岡兩縣へ出張被仰付候	土木局	全 上
明治十五年十月五日	御用掛被仰付候事	但一ヶ年金三百円下賜候事	東京大學理學部勤務被仰付候事	文部省	全 上
明治十五年十一月九日	但一ヶ年金三百円下賜候事	月俸五拾圓增加候事	群馬長野兩縣へ出張被仰付候事	文部省	全 上
明治十六年二月一日	御用掛兼勤被免候事	月俸三十円增加候事	福井縣下越前國坂井港出張申付候事	内務省	全 上
明治十六年五月二日	御用有之福井新潟兩縣へ出張申付候事				

六月十五日	札幌縣出張申付候事						全	上
九月二十日	歸京ノ節秋田縣へ立寄土崎港見今						全	上
スハシ電報								
十七年三月六日	新潟富山石川福島阿賀川長野信濃川流域六縣内土木局直轄工事監							
岐阜庄川								
三月廿二日	御用有之新潟縣外ニ二縣へ出張申付							
督被仰付候事								
三月廿二日	御用有之新潟縣外ニ二縣へ出張申付							
候事								
六月二十日	御用有之札幌新潟兩縣へ出張被仰付候事							
七月九日	任内務三等技師							
二級月俸下賜候事								
八月三十日	叙從六位							
履歷用紙								
明治十七年十一月廿二日	新潟縣在勤被仰付候事							
十八年四月十日	御用有之福井縣出張被仰付候事							
五月十二日	御用有之秋田縣出張被仰付候事							
七月九日	御用有之福井縣出張被仰付候事							
十九年五月一日	任工科大學教授兼工科大學長							
	叙奏任官二等							
	上級俸下賜							
五月十六日	帝國大學評議官ヲ命入							
兼任内務二等技師兼工科大學長如故								
五月十七日	叙奏任官二等							
福井石川富山新潟長野五縣へ出張								
ヲ命入								
七月八日	叙正六位							
内務省								

二十年三月十五日	年俸三百円下賜							全	上
四月七日	市街清潔規則審議ノ為メ中央衛生 會臨時委員ヲ命ス							内務省	閣
四月十四日	第三區土木監督署ヘ出張ヲ命ス							内務省	閣
七月十五日	第五第六區土木監督署ヘ出張ヲ命 ス							内務省	閣
廿一年一月九日	神奈川縣横須賀ヘ出張ヲ命ス					全	上	全	上
五月七日	工學博士ノ學位ヲ授ク					文部省		内務省	閣
五月十四日	中央衛生會臨時委員ヲ命ス					内務省		内務省	閣
七月十九日	福島縣ヘ出張ヲ命ス					内務省		内務省	閣
八月三日	德島縣ヘ出張ヲ命ス					内務省		内務省	閣
八月廿三日	新潟外二縣ヘ出張ヲ命ス					内務省		内務省	閣
履歷用紙						内務省		内務省	閣
明治二年九月一日	東京市區改正委員ヲ命ス					内務省		内務省	閣
十月十四日	内務大臣山縣有朋歐洲諸國巡回ニ 付隨行ヲ命ス					内務省		内務省	閣
十月廿六日	依願免兼工科大學長					内務省		内務省	閣
	年俸金千八百圓下賜					内務省		内務省	閣
	依願帝國大學評議官ヲ免ス					内務省		内務省	閣
	歐洲巡回ニ付工科高等學校構成法 及學術講習ノ方法調查報告ヲ命ス					内務省		内務省	閣
廿二年九月十八日	歸朝					内務省		内務省	閣
十月十一日	兼任工科大學長 兼內務二等技師如故					内務省		内務省	閣
十月十二日	上級俸下賜					内務省		内務省	閣
十月廿六日	帝國大學評議官ヲ命ス					内務省		内務省	閣
全	文部省					内務省		内務省	閣
上									

廿三年一月七日	十二月廿四日	第一土木監督區巡回ヲ命ス	第三回内國勸業博覽會審査官被仰付	内閣	内務省	内國勸業博覽會事務局	
六月十四日	六月十日	東京工業學校商議委員ヲ命ス	任内務省土木局長	文部省	文部省	内國勸業博覽會事務局	
		敘奏任官二等	上級俸下賜	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		兼任工科大學教授	兼任工科大學長	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		兼任工科大學長	兼任工科大學長	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		叙奏任官二等 <small>工科大學教授兼任工科大學長</small>	年俸金六百円下賜	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		帝國大學評議官ヲ命ス	樞密院	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		履歴用紙	全上	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
明治廿三年九月九日	九月廿九日	中央衛生會臨時委員ヲ免ス	内閣	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		貴族院令第一條四項ニ依リ貴族院議員ニ任ス	内閣	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
廿四年三月三十日	十月一日	審査官ノ勞ヲ賞シ藍綬褒章下賜	賞勳局	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
	十一月廿五日	第一回四土木監督區巡回ヲ命ス	内務省	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
	廿四年三月三十日	年俸金五百円下賜	内務省	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
四月十五日	四月八日	陞敘奏任官一等 <small>内務省土木局長</small>	中級俸下賜	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		陞敘奏任官一等 <small>工科大學教授兼任工科大學長</small>	年俸五百円下賜	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
八月十六日	八月十日	第四土木監督區へ出張ヲ命ス	官等俸給令ヲ廢シ俸給制ニ改ム	内務省	内務省	内國勸業博覽會事務局	
		廢官					

乙

七月十三日	二級俸下賜	土木會委員被免	内務省
九月十七日	第四第五土木監督區巡回被仰付	第二土木監督區出張被仰付	内務省
十月廿一日	第一第六土木監督區出張被仰付	十二月廿日 内務省所管事務政府委員被仰付	内務省
十一月六日	第三土木監督區出張被仰付	十二月廿日 第四回内國勸業博覽會審查官被	内務省
廿八年一月二十日	第一第六土木監督區出張被仰付	内務省	内務省
	土木會委員被仰付	内務省	内務省
一月廿八日	土木會委員被仰付	全	上
二月三十日	第七部長ヲ命ス	全	上
三月廿六日	第四第五第六第七土木監督區出	内務省	内務省
	張被仰付	内務省	内務省
五月八日	京都本局出張所へ出張ヲ命ス	内務省	内務省
履歴用紙		内務省	内務省
明治廿六年十一月十九日	内務省所管事務政府委員被仰付	内務省	内務省
廿九年二月十二日	兼任内務省土木局長	内務省	内務省
	内務省	内務省	内務省
叙高等官二等	内務省	内務省	内務省
一級俸下賜	内務省	内務省	内務省
三月廿六日	明治二十四年臨時博覽會事務局評議員ト為リ其事ニ執掌シ殊ニ明治	内務省	内務省
	ニ十八年第四回内國勸業博覽會審	内務省	内務省
查官ト為リ第七部長ヲ擔任シ拮据	内務省	内務省	内務省
勵精能ク事務ヲ整理シ處分宣キヲ	内務省	内務省	内務省
得其勞効顯著ナリトス仍テ褒章條	内務省	内務省	内務省
例第三條ニ據リ曾テ授典セシ藍綬褒章ニ附スヘキ飾版走個ヲ賜ヒ	内務省	内務省	内務省
再ニ之ヲ表彰ス	内務省	内務省	内務省

三月廿七日	東京工業學校商議委員ヲ免ス					文部省	
三月廿九日	第七回帝國議會召集ノ際勳精ニ付						
	銀盃一組ヲ賜フ					賞勳局	
六月十一日	第五第六土木監督區ヘ出張被仰付					内務省	
十月廿三日	柬甫寮國「コンマンドール・ド・ロルド ル・ロワヤル・デュ・カンボヂュ」勳章ヲ						
十月廿八日	第三第四土木監督區ヘ出張ヲ命ス					賞勳局	
十月廿九日	臨時博覽會評議員被仰付					内務省	
十一月廿一日	内務省所管事務政府委員被仰付					内閣	
十一月廿二日	叙從四位					上	
青共六日	第四第五土木監督區ヘ出張ヲ命ス					内務省	
三十年一月二日	叙勳三等授旭日中綬章					樞密院	
履歴用紙							
明治三十一年一月二十九日	京都府ヘ出張ヲ命ス						
三月廿四日	足尾銅山礦毒事件調査委員被仰付					内務省	
七月廿四日	第三第四土木監督區ヘ出張ヲ命ス					内務省	
八月十九日	第五第六第七土木監督區ヘ出張ヲ					内務省	
	命ス						
八月二十六日	陞叙高等官一等						
十月十三日							
十月廿八日	第四第五第七土木監督區ヘ出張ヲ					内務省	
十一月廿五日	港灣調查委員被仰付					内閣	
十一月廿七日	足尾銅山礦毒事件調査委員被免 付金貳百円支給ス					上	
十一月三十日	内務省所管事務政府委員被仰付					上	

							廿月廿七日	第一第五土木監督區へ出張ヲ命ス	内務省
廿年三月廿一日	第五第六土木監督區へ出張ヲ命ス	全	内	閣			五月廿二日	内務省所管事務政府委員被仰付	内務省
六月廿四日	東京工業學校商議委員ヲ命ス	文部省	宮内省	閣			七月十九日	依頼免本官並兼官	内務省
九月二十日	特旨ヲ以テ位一級被進	内	内	閣			十月九日	任遞信次官	内務省
	叙正四位						十一月十日	遞信省通信局長心得ヲ命ス	递信省
	叙高等官一等						十二月廿四日	遞信省通信局仕拂命令官ヲ命ス	全上
	遞信省通信局長心得ヲ免ス	全	上				十三月廿四日	遞信省通信局仕拂命令官ヲ免ス	全上
	遞信省通信局仕拂命令官ヲ免ス	全	上				十四月廿四日	遞信省鐵道局長心得ヲ免ス	递信省
	履歷用紙						十五月廿四日	遞信省鐵道局長心得ヲ命ス	递信省
	日本鐵道株式會社會計監查官ヲ命	ス					十六年二月廿五日	鐵道國有調查會委員被仰付	内閣
	日本鐵道株式會社會計監查官ヲ免	ス					廿二年二月	工學博士會會長ニ當選	内閣
	遞信省鐵道局長心得ヲ免ス	全	上				廿二年二月廿五日	鐵道國有調查會委員被仰付	内閣
	遞信省鐵道局長心得ヲ免ス	全	上				廿四年四月七日	日本鐵道株式會社會計監查官ヲ免	内閣
	遞信省鐵道局長心得ヲ免ス	全	上				廿四年四月十日	文官高等懲戒委員被仰付	内閣
	高等海員審判所長心得ヲ命ス	上	上				廿四年四月十三日	文官高等懲戒委員被仰付	内閣

					五月八日	遙信省管船局長心得ヲ免ス	遙信省
					五月十日	高等海員審判所長心得ヲ免ス	全 上 閣
					六月三日	鐵道會議議長被仰付	全 上 閣
					廿三年五月二十日	土木會委員被仰付	全 上 閣
					十月廿日	遙信省所管事務政府委員被仰付	全 上 閣
					廿四年五月廿七日	任遙信總務長官兼遙信省官房長叙高等官一等	内 閣
					七月三日	港灣調查會委員被仰付	内 閣
					十月八日	鐵道作業局長官心得ヲ命ス	遙信省
					十月廿七日	鐵道作業局長官心得ヲ免ス	全 上 閣
					十一月廿一日	免兼官	内 閣
					十二月廿一日	依頼免本官	全 上 閣
						樞密院	
						内閣	
					明治卅三年十月十三日	港灣調查會臨時委員被仰付	内 閣
					卅四年一月十九日	第五回内國勸業博覽會評議員被仰付	内 閣
					三月十三日	丁抹國皇帝陛下ヨリ贈與シタル「コ	内 閣
						ンマンドール、ド、ラ、ブルミ卫ル、クテス、	
						ド、ロルドルデニ、ダネ、ブログレ勳章ヲ	
						受領シ及ヒ佩用スルヲ允許ス	
					十月廿五日	高等教育會議々員被仰付	内 閣
					十一月廿九日	第五回内國勸業博覽會審查第八部長被仰付	内 閣
					廿五年十一月廿九日	遙信總務長官在官中明治三十三年清國事變ニ於ケル功ニ依リ金七百四十円ヲ賜フ	上 閣

廿六年三月七日	帝國大學令第十三條ニ依リ勅旨ヲ	以テ東京帝國大學名譽教授ノ名稱	内閣	ノ授ク				
三月三十日	任鐵道作業局長官		内閣					
	叙高等官一等							
四月一日	廢港灣調查會規則							
四月六日	依頼第五回内國勸業博覽會審查							
	第八部長被免							
五月十二日	遞信省所管事務政府委員被仰付	全上	内閣					
青青十日	鐵道會議々員被仰付	全上	内閣					
青青八日	文官分限令第十一條第一項第四號ニ依リ休職被仰付	全上	内閣					
明治廿七年二月廿日	京釜鐵道株式會社總裁被仰付	内閣						
廿八年十月二十日	鐵道會議々員被免	全上	内閣					
	韓國勳一等太極章受領シ及ヒ佩用							
	允許							
廿九年四月一日	休職滿期							
	十青七旨							
三十七八年從軍記章授與	叙勳一等授瑞寶章 <small>三十七八年事件功</small>	掌魚局	内閣					
六月三十日	博覽會開設臨時調查會委員被仰付	内閣	内閣					
	任統監府鐵道管理局長官							
	叙高等官一等							
	一級俸下賜							
九月十四日	帝國學士院規程第二條ニ依リ勅旨	内閣	内閣					
	ヲ以テ帝國學士院會員被仰付							

四年	一月廿二日	政府委員被仰付		全	上
	六月十七日	依頼免本官		全	上
	八月十九日	韓國皇太子殿下嘉禮記念章受領及 ヒ佩用允許		費 煙 句	
四年	六月六日	日本大博覽會評議員被仰付	内	閣	
四年	四月十九日	日本大博覽會評議員被仰付	全	上	
四年	五月廿七日	議院建築準備委員會委員被仰付	全	上	
四年	十月十八日	臨時治水調查會委員被仰付	全	上	
四年	四月六日	廣軌鐵道改築準備委員會委員被仰付	全	上	
		付	全	上	
	五月三十日	日本大博覽會工事計畫審查委員ヲ			
	九月九日	港灣調查會委員被仰付			
		嘱託ス			
明治四五年	十一月八日	日本大博覽會工事計畫審查委員ヲ	農商務省	農商務省	
		嘱託ヲ解ク	内閣	内閣	
大正元年	八月一日	韓國併合記念章授與	農商務省	農商務省	
三年	六月十八日	特旨ヲ以テ位一級被進	營業局	營業局	
		叙從三位	宮内省	宮内省	
	六月廿三日	臨時博覽會評議員被仰付	内閣	内閣	
四年	十一月十日	大禮記念章授與	内閣	内閣	
五年	四月一日	賜金千五百円 大正三年事件ノ功	内閣	内閣	
	五月廿四日	佛蘭西共和國「コンマンドール・ド・ロル ドル、ナショナル・ド・ラ・レジヨン、ドー ル」勳章ヲ受領シ及ヒ佩用スルヲ允 許セラル	内閣	内閣	
七年	四月三十日	臨時教育會議委員被仰付	内閣	内閣	

履歴用紙							五月廿三日	金杯一組ヲ賜フ	賞勳局
大正十年九月廿三日	帝國學士院第二部長ニ認可	六月廿二日	帝國學士院第二部長ニ認可	内	閑	内	内	内	内
十一月廿七日	臨時議院建築局顧問被仰付	七月十八日	臨時議院建築局顧問被仰付	内	閑	内	内	内	内
十二年一月十日	度量衡及工業品規格統一調査會委員被仰付	五月廿四日	金杯一組ヲ賜フ 臨時教育會議官制廢止	内	閑	内	内	内	内
十三年一月十四日	道路會議議員被仰付	六月廿五日	臨時治水調查會委員被仰付	内	閑	内	内	内	内
十四年三月廿二日	依頼工事研究會議員被免ス	九年十月一日	銀杯一組ヲ賜フ 大正四年乃至九年 事件功(議員)	内	内	内	内	内	内
六月三日	帝都復興院官制廢止	十月廿五日	學術研究會議員被仰付	内	閑	内	内	内	内
七月廿四日	鐵道會議ノ員被仰付	十年一月卅一日	臨時治水調查會委員被仰付	内	閑	内	内	内	内
八月廿四日	酒肴料下賜	大正九年九月廿三日	工業品規格統一調査會委員被仰付	内	閑	内	内	内	内
九月廿四日	帝都復興院評議會評議員被仰付	十一年七月廿七日	鐵道會議ノ員被仰付	内	閑	内	内	内	内
十月廿四日	内	十二年一月十日	七十歳ノ高齡ノ付御紋付銀杯立ニ	内	閑	内	内	内	内
十一月廿四日	内	十三年一月十四日	任樞密顧問官	内	閑	内	内	内	内
十二月廿四日	内	十四年三月八日	除服出仕被仰付	内	閑	内	内	内	内
十四年三月廿二日	帝都復興院官制廢止	十五年一月十六日	頒ニ依リ貴族院議員ヲ免ス	内	閑	内	内	内	内
六月三日	帝都復興院官制廢止	六月廿四日	震災豫防評議會評議員被仰付	内	閑	内	内	内	内

十五年十一月廿二日	佛蘭西政府ヨリ贈與ニタル「グラン・オフ	シエード、ロルドル、ナショナル、ド・テ、レレヨン、	ドノール」勳章ヲ多領シ及ヒ佩用スルヲ先	許セラル	白耳義國皇帝陛下ヨリ贈與セタルア	ラン・クロア、レオ・ボーラー第二世勳章ヲ	賞焉可
同 日	青色	改元	受領シ及ヒ佩用スルヲ先許セラル	同	昭和二年正月十五日	敘正三位	許セラル
同 日	履歷	用紙	授旭日大綬章	内閣	昭和二年正月十七日	臨時廣氣事業調查會委員被仰付	許セラル
同 日	六月廿二日	序書	鐵道會議議員被仰付	内閣	一月三日	授旭日大綬章	内閣
同 日	七月十八日	字號	鐵道會議議員被仰付	内閣	一月三日	臨時廣氣事業調查會委員被仰付	内閣
同 日	八月六日	官印	高等官官等俸給令ノ以シ	内閣	一月三日	授旭日大綬章	内閣
同 日	九月廿九日	密書	東京科學博物館評議員ヲ鴈託ス	内閣	一月三日	臨時廣氣事業調查會委員被仰付	内閣
同 日	十月廿六日	密書	依頼宗秩察審議官被免	内閣	一月三日	授旭日大綬章	内閣
同 日	十一月廿六日	文部省	下賜セラレタリ	内閣	一月三日	鐵道會議議員任期(三年)滿了退任	内閣
同 日	十二月二日	文部省	特旨ヲ以テ官印枝被差許	内閣	一月三日	鐵道會議議員任期(三年)滿了退任	内閣
同 日	同月廿八日	文部省	授旭日桐花大綬章	内閣	一月三日	鐵道會議議員任期(三年)滿了退任	内閣
同 日	同月廿九日	文部省	滿洲國建國功劳章受鵝	内閣	一月三日	鐵道會議議員任期(三年)滿了退任	内閣
同 日	同月三十日	文部省	鄂寧寧乃至五年至靈之佑ノ念祐但賜	内閣	一月三日	鐵道會議議員任期(三年)滿了退任	内閣